

令和4年度石川県内部統制評価報告書審査意見書

石川県監査委員監査基準（令和2年石川県監査委員告示第1号）に準拠し、地方自治法（昭和22年法律第67号）第150条第5項の規定により、同条第4項に規定する報告書の審査を行ったので、次のとおり意見を付する。

令和5年8月31日

石川県監査委員	安居	知世
同	一川	政之
同	村上	勝
同	作田	有子

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和4年度石川県内部統制評価報告書

2 審査の方法

内部統制評価報告書の審査に当たっては、石川県監査委員監査基準に準拠し、知事による評価が評価手続に沿って適切に実施されたか、内部統制の不備について重大な不備に当たるかどうかの判断が適切に行われているかといった観点から、内部統制の整備状況及び運用状況並びに評価に係る資料について内部統制評価部局等から説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

また、その他の監査などにおいて得られた知見を活用した。

第2 審査の結果

令和4年度石川県内部統制評価報告書について、前記のとおり審査した限りにおいて、評価手続及び評価結果に係る記載は相当であると認められる。

第3 審査の意見

重大な不備のあった事務については、再発防止策を着実に実行するとともに、関係部局に対しても防止策等について情報共有を図るなど、再発防止に向けた取組に努められたい。

なお、令和2年度に内部統制制度が導入されて以来、内部統制評価報告書の審査は、今回で3度目となるが、不適切事例は年々増加しており、また、令和4年度については、全体のおおよそ3分の2が定期監査や会計実地検査により把握されている。

こうした点を踏まえ、内部統制がより一層有効に機能するよう努められたい。